

0.2ミリケイ・ベタ
252↑
178

2.5ミリケイ・20%
70↑
80

tokyo_01.tif
60%に縮小
x21ミ
y22ミ

東京都

32a 新ゴB
x25ミ
y25ミ

70%

80% 50a 新ゴB
0.3ミリケイ・ベタ
流用
青梅市 *diary*

ume_01.tif
22.5%に縮小

市立青梅総合医療センター DATA

- ・病床数：521床
- ・手術室：10室、血管造影室：1室
- ・年間麻酔科管理：2556件

11a 新ゴR
18H

x136ミ
y46ミ

1ミリケイ
20%
25.5↑
54ミ

0.2ミリケイ
白ヌキ
70%
x5ミ・白ヌキ

東京都は東西に細長く、世界的大都市の東側に対し、西へ行くほど郊外が広がっていきます。その最西端は山梨県・埼玉県に接する丘陵や山地につながり、西多摩地区と呼ばれます。青梅市は、この西多摩地区という緑豊かで大自然あふれる地域にあります。多摩川や秋川といった清流、溪谷、さらには湖などの観光資源にも恵まれ、都心から日帰りできる観光スポットとして人気があります。例えば、ハイキングコースとしても人気の御岳山にある七代の滝。七段に分かれており、一般に見ることのできるのはここだけです（写真1）。そのほか、

青梅市の名前の由来となった梅を植樹した梅の公園（写真2）（梅郷4-527）や、例年5月下旬から吹上しょうぶ公園（吹上425）で開催される吹上花しょうぶまつりもおおすすめです。

市立青梅総合医療センター（以降、当院）は、都内の12の地域医療圏のうち、人口が最小で面積が最も大きい西多摩医療圏で唯一の救命救急センターを併設しています。山岳部や高速道路などの事故でも、山あいの地域住民の急性疾患でも、日常的にヘリで患者が搬送されて来ます。夜間・休日の手術は原則1列しか対応できませんが、当院での加療が難しい場合などには、東京都の面積が狭いためかすぐ東側の他医療圏にある高度機能病院に比較的容易に搬送できるのは、ちょっとしたメリットだと考えています。もっとも近年は、

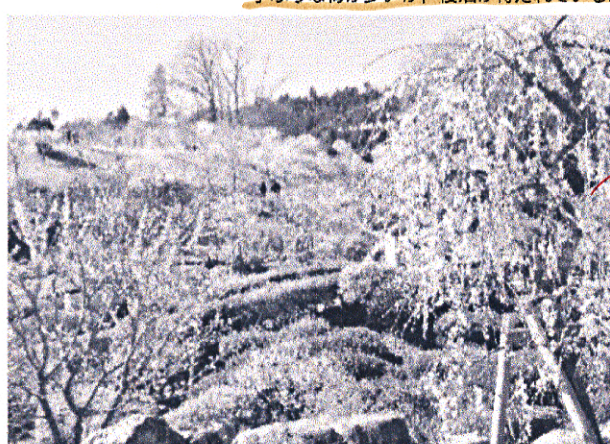


写真2 梅の公園
2014年に全伐採され新たに再植樹されたため、小ぶりな梅が多いが、復活が待たれている。

高齢化のためか当地域内での治療の完結を望む声も多くなっており、外科系医師・循環器内科医師たちも、ロボット支援手術や低侵襲内視鏡手術、カテーテル手術を当院でも続々と開始しています。おかげで田舎にある割には、のんびりとはしてられない病院かもしれません。

初期臨床研修では、内科医・小児科医による指導の手厚さもあってか、当院を希望する初期研修医も多く、その流れで毎年多くが麻酔科をローテーションしてくれます。ただ麻酔科の魅力を伝え切れていないためか、麻酔科志望者の増加にまでつなげられないのは心苦しいところです。

麻酔科に関しては、いわゆるオンコール体制ではなく、宿直体制をとっています。そのため、忙しいときはありますが、ある程度余裕をもって働くことができます。私を含め都区部から通勤している医師も多く、都心部で会合などの用事があっても都合をつけることが可能です。もちろん、多摩地区に住居を構え、ゆったりとした住環境を整えて、家族の通勤・通学を見据えている医師も、増えてきています。

“大都会の近くの”田舎で働くのも、なかなか魅力的だと思っています。皆さんも一緒に働いてみませんか。



写真1 七代の滝
10a ログ>DB (以下同)

市立青梅総合医療センター 麻酔科 三浦 泰

11a M4G BBB

12a ログ>B